

平成 29 年 6 月

学校関係者評価報告書

学校法人 名古屋大原学園
大原公務員医療観光専門学校沼津校
学校関係者評価委員会

平成 29 年 3 月に実施された自己点検・自己評価の結果をもとに、学校関係者評価の実施を行いました。「1. 教育理念・目標」以下 10 項目にわたり、学内で評価された問題点とその改善のための方策並びに両者に関する関係者からの評価と助言を掲載します。

1. 教育理念・目標

【課題】

学園の年間業務計画書である O C P 計画書に「学園の基本運営方針」「学園の教育目標」「学園スローガン」が定められており、その中で学校の理念・教育目標・育成すべき人物像等が明らかにされている。

また、毎年学生に配布している学生手帳（トライアングル手帳）の中にも「大原生の 4 つの入学目的」や学園の教育理念である「トライアングル教育」についての記述があり、毎日のホームルーム等で手帳活用方法の確認とあわせて教育理念等の学生への浸透を図っている。

一方、保護者へはこれまで、入学前の保護者説明会、入学式、保護者向け就職ガイダンスでの紹介にとどまっており、全員を対象とした機会が確保されていなかったが、平成 29 年 4 月新入生の保護者を対象としたオリエンテーションを入学式直後の 4 月 9 日に実施しており、学園の教育理念や教育目標の浸透に努めている。

この、新入生の保護者を対象としたオリエンテーションは今後も継続実施していく。

【今後の改善方策】

保護者に対する教育理念等の周知は一昨年度からの継続課題であり、入学式や入学後の保護者ガイダンス等に加え、入学前の学校説明会時の保護者説明等で直接、学園の教育理念・教育目標を伝える等その機会を増やしている。

平成 29 年度より新入生の保護者を対象としたオリエンテーションを実施し、学園の教育理念や教育目標を伝える機会をさらに増やしており、今後も様々な機会に保護者に周知できるよう努めていく。

【関係者評価】

教育理念・教育目標に関して、概ね適切であると思われる。

保護者向けに教育理念等を周知していくことは難しいことではあると思うが、継続して取り組んでいくことが大切だと思うので、今後も継続して取り組んで行って欲しい。

学校でどのような教育が行われているのかについて、実習等で施設を利用する際の学生のマナーも良いと現場担当者から聞いており、大原はしっかりした学校であるとの印象を持っている。

2. 学校運営

【課題】

学園の年間業務計画書であるO C P計画書の中で月単位の業務計画を策定し、その遂行状況を朝礼等で確認・報告している。

また、学園の組織図や意思決定機関もO C P計画書に明示され、組織図に従った意思決定とコンプライアンスを遵守した組織運営がなされている。

人事・給与に関する規定も整備されており、職員に周知されている。

情報システムのうちメール・システムに関して Office365 メール・システムを利用することにより、その利便性が大幅に改善されたが、平成 28 年度末に新システムへの移行を予定していた学生管理システムに関しては、移行が実現していない。

【今後の改善方策】

学生管理システムの移行を含めた新システムの構築・運用を早期に実現し、さらに全職員にコンピュータリテラシ教育を施し学生指導や日常業務の遂行上必要なコンピュータ資源の有効活用に努めていく。

【関係者評価】

学校運営に関して、概ね適切であると思われる。

昨年と比較して「適切」「ほぼ適切」の評価の割合が高くなっており、職員へ周知されている部分も多いと思われるため、昨年より改善が見られる点で評価できる。

3. 教育活動

【課題】

授業評価については平成 27 年度と同様、新入教職員に対する模擬授業評価の実施のみにとどまっております。早急な評価体制の確立および授業評価の実施が必要である。

インターンシップについては平成 28 年度についても、ホテル・ブライダル科の長期ホテル・インターンシップ、医療事務科の病院実習を実施しているが、公務員科の短期インターンシップは実施できていない。

【今後の改善方策】

平成 26 年度からの課題でもある「教職員に対する授業評価」については、早急に授業評価計画を策定

し、校長を中心とした定期的な評価の実施とその評価結果を踏まえた面談等を通じて、教職員の業務力向上に努めていく。

公務員科のインターンシップについて、全員が参加できるよう研修先の確保および体制づくりに努めていく。

専攻分野における教員研修に関しては今後も、各専攻分野における外部研修を学校として情報収集し、各職員に参加を指示する形で組織的に行い、計画的なレベルアップを図る。

【関係者評価】

教育活動に関して、概ね適切であると思われる。

公務員の分野で学校とかかわりを持っているが、教育に関して教員が良くがんばっており専門課程、社会人課程のそれぞれで多くの合格者を輩出している点は評価できる。

医療機関において、医療知識は医療機関内のあらゆる部署が必要としており、専門学生は即戦力として基礎知識を身につけたうえで就職してもらえる点で非常に助かっている。

最近の新入社員を見ると、自ら考えて行動できない、指示待ち人間が多くなっているとの印象が強く、学校の中でも学生が自ら考えて行動できるような教育をしていって欲しい。

教育課程編成委員会の中で出した意見を、教育活動に取り入れてもらっているのはありがたい。

教員自身のスキルアップを図るうえでも、お互いに授業を見学し評価し合う体制を構築することが必要ではないかと思う。

4. 学修成果

【課題】

平成 27 年度の課題であった「退学率の低減」について、平成 28 年度は改善が見られた。

従来からの課題である「卒業生の社会的活躍・評価や卒業後のキャリア形成への効果」について具体的な把握が出来ていない。また、在校生の社会的な評価も現状、限られた範囲（高校等）での把握にとどまっている。

卒業後のキャリア形成を考慮し、簿記等の社会人向け講座を開講しているが、科目数・コース数等の量的な面での充実度は十分とは言えない。

【今後の改善方策】

退学者の減少に向けて担任を中心とした日常的な指導のほか、必要に応じて学科責任者や校長の面接指導を実施しており、今後も継続して退学者の減少に努めていく

卒業生・在校生の社会的な活躍や評価を把握する仕組みについて教職員間で協議を重ね、また学校関係者各位にも意見を伺いながらその評価システムの構築を目指していく。

【関係者評価】

学修成果について、概ね適切であると思われる。

昨年と比較して、「やや不適切」が減少している点は評価できる。

卒業生の動向を把握して外部へ告知することが、学校の評価を向上させる要因でもあると思い、結果として入学者の増加や退学者の現象にも繋がってくると思うので、学習成果を今以上に積極的に外部へアピールするための具体的な方策を策定し、実施していくことが必要ではないかと思う。

退学者に関して、他の学校と比較してかなり少ないと思われ、日常の生活面での指導の成果が現れていると思う。

就職に関する数字（就職率）についても良いと思う。

在学中の学生の評価と、社会へ出てからの評価は必ずしも同じではなく、良くなるケースもあれば悪くなるケースもある為、卒業後の学生の評価を把握する工夫をして今後の学生指導に活かして欲しい。

5. 学生支援

【課題】

卒業生への支援体制については昨年度からの課題であり、卒業生の動向把握や支援についての体制が確立していないのが現状である。

社会人のニーズを踏まえた教育環境について、ソフト面において簿記、公務員、行政書士、宅地建物取引士等、様々な教室通学講座を開講しているが、その中の公務員講座については高卒程度のみであり、最もニーズのある大卒程度公務員の教室通学講座は開講していない。

【今後の改善方策】

卒業生への支援体制については平成26年度からの継続課題となるが、卒業後の状況やニーズを把握するために、同窓会の組織化等を含めどのような方法が最適かを継続して検討していく。

社会人のニーズを踏まえた教育環境については、現状のマンパワーを考慮しつつラインナップの拡大を図っていく。

【関係者評価】

学生支援に関して、概ね適切であると思われる。

学生に対する経済的な支援制度をさらに充実させて欲しい。

学生にとって学習しやすい環境を整えると同時に、保護者との連携をより密にして連携体制を強化して行って欲しい。

卒業生の動向を把握し、卒業生への支援体制を充実させる工夫が必要ではないかと思う。

6. 教育環境

【課題】

教室（通常教室・実習室）や教育備品（パーソナル・コンピュータ）等の学校施設・設備に関しては、

学生数に応じ適正に用意されており、学びやすい環境整備を心掛けているが、教室数に余裕がなく、若干の窮屈さを感じる場面が生じている。

海外研修について、学生の自主的な海外体験に対する支援制度として「オーバーシーズプログラム」を設けており、若干名ではあるが利用申請も出ている。学校主催の団体旅行的海外研修は現在実施しておらず、当面実施の予定もない。

【今後の改善方策】

教室環境整備については平成 27 年度からの継続課題となるが、学生・受講生に窮屈さを感じさせないような工夫を継続して行っていく。

海外研修については、学生の将来の海外赴任や海外出張を想定し、自分自身で旅行の手配や渡航手続きを行うことを趣旨とした「オーバーシーズプログラム」を設けており、今後この制度の普及啓蒙に勤めることで、学生の海外体験を推進していく。

防災に対する体制については、職員および学生を対象とした避難訓練を実施すべく関係機関と調整中である。

【関係者評価】

教育環境に関して、概ね適切であると思われる。

防災に対する体制整備の面で、外部施設を利用（一次避難所として小学校を利用）した避難訓練の実施が難しいとあるが、そのような状況であれば、まずは学校の施設内での一次避難訓練の実施をしてみてもどうか。非常階段を利用した避難経路の確認だけでも十分に意義があると思う。

実際に災害が発生した場合を想定したマニュアルの整備、学生・受講生の避難誘導や防災管理盤、緊急放送等の使用方法、学生の安否確認の方法等、災害に備えたシステム作りが早期に必要であると思う。

ちなみに、ホテルでは月 1 回避難訓練を実施しており、災害時のお客様の誘導等に備えている。大勢の人が集まる場所である学校でも、災害時に職員が動けるようにするための定期的な訓練が必要である。

7. 学生の受入れ募集

【課題】

特になし

【今後の改善方策】

学生の募集活動と募集活動における教育成果の伝達について 8 割の教職員が適正に行われていると答えている。

この事からも学生の受入れ募集については適正に行われていると言え、今後も現在の体制を継続・維持していくとともに、より多くの入学希望者や潜在者に対して学校の魅力が伝えられるよう努めていく。

また、校長をはじめとした教務担当者の高校訪問等を継続して実施することにより、学校の魅力を直接伝えられる機会を増やすよう努めていく。

【関係者評価】

学生の受入れ募集に関して、概ね適切であると思われる。

「本気になったら大原！」のキャッチコピーが十分に浸透していて、学生募集にも大きく貢献していると思う。

CMでの露出が学科により偏りがあると思われるため、そのあたりは改善して欲しい。

8. 財務

【課題】

特になし

【今後の改善方策】

財務内容については現状これといった問題はなく、会計監査についても適正に行われている。また、学園全体の財務情報もホームページに公開されており財務情報の公開も適正である。

【関係者評価】

財務に関して、概ね適切であると思われる。

財務に関しては特に申し上げることはない。

9. 法令等の遵守

【課題】

特になし

【今後の改善方策】

学園全体で関係諸法令の遵守に努めており、適正な学校運営がなされている。また、自己点検・自己評価の実施も行っており、その結果についてもホームページで公表している。

【関係者評価】

法令等の遵守に関して、概ね適切であると思われる。

企業実務において、個人情報の管理や情報漏洩を防止するため、パスワードによるセキュリティやUSBメモリを挿せないようにしている。医療の現場においても患者様の情報漏洩は絶対にあってはならないことであり、通院の有無も他人に教えることは出来ない。学生の中には、実習やインターンシップで実際の企業や医療機関で、個人情報や企業情報に触れる機会もあると思うので、情報漏洩の防止につ

いて、授業等で啓蒙する必要があると思う。

実習先等で知り得た情報を公共の場で安易に話をしたり、SNS等に安易に書き込んだりといったケースが生じないように教育して欲しい。

10. 社会貢献・地域貢献

【課題】

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献については、現状、社会人向け講座の開講のみにとどまっている。

【今後の改善方策】

今後も、地元自治会や商店街等と連携し、地域のニーズを把握し、ニーズに応じた社会貢献・地域貢献に努めていく。

学生のボランティア活動を推奨し、地域のお祭りやイベントなどへのボランティア参加を継続していく。

【関係者評価】

社会貢献・地域貢献に関して、概ね適切であると思われる。

学生ボランティアの奨励等、学校と地域の関わりの中でお互いに必要とされる共助の関係が良好に築けている。この良好な関係を維持していくためにも、学校の資源を今以上に地域に公開してもらえるとありがたい。

学園長の人間学講座のような公開講座を開講するなど、地域に貢献して欲しい。

ボランティア連絡協議会に登録してもらえれば情報提供も可能になるので、地域貢献の一助になると思う。

仲見世商店街を利用する高齢者等が、気軽に立ち寄れる場所になってもらえるよう期待する。

学校関係者評価委員会

役職	氏名	現職
委員長	中山 治久	沼津市大手町町内会 大手町会館 事務長
委員	宮内 裕光	みやうち司法書士事務所 司法書士
委員	森 真澄	一般財団法人 芙蓉協会 聖隷沼津病院 事務次長
委員	伊藤 博	株式会社K T S オペレーション 沼津リバーサイドホテル 副総支配人
委員	安藤 和美	社会福祉法人 沼津市社会福祉協議会 事務局 次長
委員	岩間 玉紀	株式会社 ウェルビーイング 人事・人材開発部 教育担当
委員	遠坂 篤史	株式会社 ウェルビーイング 人事・人材開発部
委員	小山 里恵	大原公務員医療観光専門学校沼津校 1年制医療事務科 卒業生